

9月議会

日本共産党議員団提案の

「原発から自然エネルギーへ
転換を」など3意見書採択

今議会では、日本共産党市会議員団が提案した3本の意見書が採択されました。

発生から半年、原発事故はいまだに収束しておらず、引き続き放射性物質の放出や汚染水処理の遅れ、土壌や食品の汚染など、国民の不安は広がっています。意見書の一つは、原発事故に関する情報公開と、事故収束のためにあらゆる手立てを実施することを国に求めるものです。

2本目の「原発から自然エネルギーへの転換を求める意見書」は、原発事故の異質の危険性や、自然エネルギーへの転換を求める国民の声が7割を超えていること、国会で再生可能エネルギー買い取り法が全会一致で採択されていることなどを紹介し、国において「現状を厳粛に受け止め」「自然エネルギーの開発と普及、促

進に全力を挙げるよう」求めています。

これら2本の意見書は、採択されるよう各党派と調整し、結果として全会一致となりました。

3本目は、低所得者を対象とした災害援護資金貸付についての意見書。東日本大震災では償還期間や利子、償還免除要件で、阪神淡路大震災時の条件より、被災者に有利に改善されています。

賛成多数で採択された意見書では、今後の災害においては東日本大震災の基準に法改正することと、阪神淡路大震災の借入において、償還免除要件の拡大を行うことを求めています。これが適用されれば、「償還期間満了時に無資力かつ償還の見込みがない」借り受け人、市では約700件（約12億円）が免除されます。兵庫県や市も同様の内容で厚労省に要望しています。

2010年度決算

39億8300万円の黒字！

西宮市の決算は、一般・特別会計をあわせ39億8300万円と、実に32年連続の黒字決算になりました。

不況の影響で個人市民税が減収になった穴埋めに、国の普通交付税など、前年比で59億3600万円の増となったことが、大きなプラス要素。結局、当初予定していた貯金の取り崩し49億円を中止。22年度末の貯金残高は、約139億円になりました。

上田さち子議員が本会議質疑を行い、市が平成26年度末で30億円の財源不足と試算しているが、23年度以降の決算剰余・約30億円ずつを見込むと不足どころか130億円以上の基金残高になることを明らかに。「貯めこむのが自治体の目的ではない」とし、国保料の引き下げや、住宅リフォーム助成など、市民の暮らし応援に有効に活用するよう求めました。

水道決算も好調
水道料金引き下げ早く！

水道決算は、水利権確保で参画していた「川上ダム」からの撤退で6億1500万円の赤字となりましたが、内部留保金は昨年とほぼ同額の29億6800万円も。さらに今後、廃止される鯉池浄水場の処分による多額の特別利益などで、順調な経営が見込め

ます。多額の内部留保金で「水道料金を引き下げるよう」求めたところ、23年度決算状況の「見極めが必要」とした上で、25年度からの次期財政計画の中で検討する旨の答弁がありました。

「盤滝トンネル無料化意見書」が採択！

西宮市民の生活道路となっている盤滝トンネルは、事業費の128億円の償還が終われば無料化になり、西宮市が県道路公社に貸し付けた12億1500万円は返済されることになっています。

党議員団はこの間、通行料金収入が大幅に伸びており、早期の償還が可能と、具体的な数値を示し、繰り返し早期無料化を求めてきました。

今議会の決算建設分科会で、まつお正秀議員が、兵庫県知事に対する意見書提出を提案し、全委員の同意を得て、最終日の本会議で、「盤滝トンネル早期無料化を求める意見書」が全会一致で採択。6日には、議長らが県庁に出向き、知事に手わたしました。



写真：西宮市広報課提供

日本共産党 西宮市会報告

2011年10月 NO.87

発行/ 日本共産党西宮市会議員団 西宮市六湛寺町10番3号（西宮市役所内）

Eメール:nmc30547@nishi.or.jp TEL.0798-35-3368 FAX.0798-22-7815

ホームページ <http://nishinomiya.jcp-giin.net/>

上田さち子
厚生常任委員
病院問題特別委員
国民健康保険運営
協議会委員
☎35-2813



佐藤みち子
厚生常任委員長
☎42-2856



杉山たかのり
団長
市民文教常任委員
都市計画審議会委員
広報委員
☎35-1682



野口あけみ
幹事長
総務常任委員
議会改革特別委員
社会福祉審議会委員
☎34-7329



まつお正秀
監査委員
建設常任委員
☎73-0775